

ルールとマナーの内容（抜粋）

原風景の保全を図り、ツアー参加者の満足度を高めるための独自ルールを定めます。

1 原風景やそれらを構成する地域資源

- 参加者に対して、地域や自然環境への配慮を促す説明を行うこと。
- 希少性の高い動植物の生息地・生育地などの情報は、公開や紹介をしないこと。
- 適正な参加人数を設定すること。
- 地域で行う原風景の保全活動への参加を積極的に呼びかけること。

2 参加者の安全

- 対象者の興味や体力などに配慮してツアーを行うこと。
- 事前に下見を行うなど、必要に応じて安全対策を行うこと。
- 救命措置や応急手当のトレーニングを受けたガイドが同行すること。
- 事故などへの緊急対応がマニュアル化されていること。
- 天候による予定の変更が準備されており、参加者にもその旨を伝えること。

3 ツアーの質

- 参加者にエコツーリズムの基本理念や考え方、ルールについて説明すること。
- ツアー内容によっては、子どもや障害者など誰もが参加しやすい工夫をすること。
- アンケート等を行い、参加者の意見をツアーに反映すること。

4 地域住民の生活環境

- 集落周辺でツアーを実施する場合には、事前に地域住民に説明し承諾を得ること。
- 写真撮影については、所有者や管理者の許可を得ること。
- 地域の事業者との連携やツアー中に地場製品の紹介などに努めること。

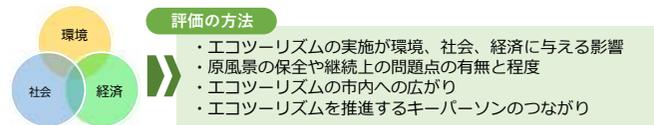
エコツーリズム推進の実効性確保の方法

エコツーリズム推進の実効性を確保するために次の仕組みを運用します。

- エコツアーの認定制度
- チェックリストを用いた点検
- 協議会によるアドバイス
- エコツーリズムガイドの養成・登録
- エコツアー参加者への説明
- ルールの定期的な見直し

原風景を構成する地域資源に対するモニタリングと評価

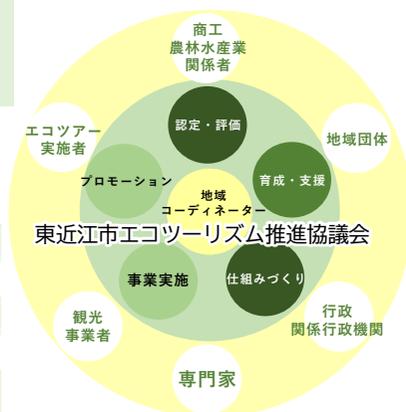
エコツアー実施者が環境、社会（原風景を構成するその他地域資源・人と人のつながり）、経済（地域経済の活性化）の視点でモニタリングし、評価を行います。



協議会の役割

推進協議会は、次の役割を担います。

育成・支援	・エコツアー実施者の掘り起こし・立ち上げ支援 ・ガイド養成講座の開催、実施者の伴走支援 など
プロモーション	・広報紙等の作成・配布、WEBサイトの運営 ・展示会等への出展、エコツアーの販売 など
認定・評価	・ガイドの認定、エコツアーの認定 ・モニタリングの指導・評価、原風景の保全、育成の指導 など
事業実践	・エコツアーの企画・実施などのプロデュース ・保全・育成活動の企画・実施 など
エコツーリズムを支える仕組みづくり	・エコツーリズムの推進環境の整備 ・ビジターセンターの管理・運営 ・ルール等の見直し、特定自然資源の指定 など



東近江市エコツーリズム推進全体構想

（概要版）



エコツーリズム推進の背景と構想策定の目的

滋賀県の南東部に位置する東近江市は、市域の56パーセントを森林が占め、東部の鈴鹿山脈から西部の琵琶湖までが一級河川の愛知川や日野川でつながり、森、里、川、そして湖といった多様な自然環境に育まれてきた暮らしや生業が調和した、人の心の奥にある癒しの風景「原風景」を見ることができると言えます。

エコツーリズム

地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を来訪者に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みです。

森 上流域

鈴鹿の山々の麓で、政所茶や木地師文化が育まれてきた山村風景が見られる地域

里 川 中流域

里山が点在する平野に近江商人の町並みなどの歴史文化、伝統的産業が受け継がれてきた地域

湖 下流域

琵琶湖とその内湖が生活を支え、集落内の水路など、水が暮らしの中で息づく地域

原風景

人と自然の関係性の中でつくられてきた多様でさまざまな資源の供給力を維持する風景

人と自然の関わりの中で維持されてきた原風景は、人口の減少や生活様式・産業構造の変化により消滅する恐れがあります。この原風景を支える地域力を維持するには、住民が地域に愛着と誇りを持つとともに、多くの人が行きたい・住みたいと思える地域づくりが必要です。

地域の課題

- 森里川湖の多様な自然環境の悪化
- 生物多様性の衰退
- 集落やコミュニティの担い手不足
- 農林水産業の担い手不足
- 市外での消費による資金流出

エコツーリズム推進の課題

- エコツーリズムの基本的な考え方の共有
- 推進体制の確立
- エコツアーガイド・実施者の不足
- 資金調達のための仕組みづくり（財源の確保）
- 環境整備（地域資源の劣化）

エコツーリズムの推進を通じて、豊かな自然資源を土台に人的資源、人工資源、社会関係資源を効果的につなぎ、その魅力を高めるとともに、地域の活力を創出し、東近江市の森里川湖の「原風景」を将来世代に継承することを目的に本構想を策定します。

基本理念

東近江市の森里川湖の原風景を未来につなぐエコツーリズム

推進する地域：東近江市全域

全体構想の見直し：概ね5年ごと



基本方針

【基本方針1】 原風景の活用

- ① 森里川湖の原風景を活用したエコツアーの企画・実施
- ② 森里川湖の原風景を育む地域産業との連携や活用

【基本方針2】 原風景の再評価、保全・再生

- ① ルールづくり
- ② モニタリング及び評価の仕組みづくり
- ③ 原風景を構成する地域資源等の保全・再生

【基本方針3】 原風景を次代につなぐ仕組みづくり

- ① エコツーリズムの推進体制づくり
- ② エコツーリズムの推進のための人材育成と確保
- ③ エコツーリズムの推進に必要な拠点の確保

【基本方針4】 エコツーリズムの理念の共有と普及

- ① エコツーリズムに関する情報提供
- ② 住民参加の促進
- ③ エコツーリズムの中での環境教育を通じた地域人材の育成

東近江市の認定エコツアー

基本理念と基本方針を実現するため、下記の基本的な考え方に沿ったツアーを東近江市におけるエコツアーとして認定し、エコツーリズムの推進を図ります。

① 原風景の魅力を引き出し、活用するツアー

専門性を有する地域ガイドが原風景の魅力をつツアー参加者に伝え、楽しみ、学ぶことができるツアーを実施します。また、地域の事業者等と連携し、地域資源（地場産品・食事・宿泊・交通等）の活用を図り、地域振興や観光振興につながるツアーとします。

③ 原風景を次代につなぐツアー

地域住民のツアーに対する理解が深まるよう働きかけるとともに、事業者、行政、専門家など多様な人材から協力を得られる推進体制を構築します。また、ツアーの質の担保はもちろん環境の保全、人材の育成など事業を継続するために必要な資金を確保できるツアーとします。

② 原風景を再評価し、保全・再生するツアー

原風景や地域社会への影響や効果を評価する仕組みを構築するとともに、原風景の保全やツアーの安全と質の向上、地域住民の生活への配慮といったルールを遵守したツアーを実施します。また、原風景を構成する地域資源の保全・育成を図り、保全再生につなげ地域住民がそこに住む人の誇りと愛着を高めることができるツアーとします。

④ エコツーリズムの理念の共有と普及をするツアー

ツアー実施者がエコツーリズム推進に当たって基本理念を理解するとともに、森里川湖に残る原風景のつながりをツアー参加者に伝え、エコツーリズムの理念の普及を図ることができるツアーを実施します。



対象とする原風景とそれらを構成する主な地域資源や資源維持の担い手

森の原風景

～鈴鹿の森の原風景をいかす～



地域資源

- 自然資源 鈴鹿山脈（鈴鹿国定公園、鈴鹿10座）
- 人的資源 鈴鹿10座エコツアーガイドクラブ、政所茶生産振興会
- 人工資源 街道・峠、釜山跡
- 文化資源 政所茶、日本遺産（永源寺と奥永源寺の山村景観）、林業遺産（木地師文化発祥の地 東近江市小椋谷）、食（政所茶、山菜、イワナ、マイタケ、こんにゃくなど）

・鈴鹿10座や100年後に残したい鈴鹿の森などを活用したトレッキングの中で、自然体験や動植物の観察だけでなく、交易で利用されてきた峠道や街道の歴史、炭焼き窯や釜山跡、天然林と人工林からみる生業との関わりなどを学ぶガイドツアー

川の名風景

～愛知川の渓谷など清流の原風景をいかす～



地域資源

- 自然資源 愛知川・日野川
- 人的資源 漁業協同組合、愛知川の清流を守る会、愛知川の源流を守る会、蒲生野考現倶楽部
- 文化資源 食（イワナ、アマゴ、アユ、ニジマス、ビワマスなど）

・魚の生態や魚が息するための森の役割、伝統的な漁法、川のある暮らしなどを学びながら川遊びや釣り、キャニオニングなどを楽しむ川と人の新たなつながりをつくるガイドツアー
・愛知川の原風景において自然や生き物の生態を学び、賑わいを復活させるための産卵床づくりなどを行うガイドツアー

里の原風景

～人と農業が織り成す農村原風景をいかす～



地域資源

- 自然資源 農地、里山、丘陵地、河辺林
- 人的資源 愛のまちエコ倶楽部、里山保全活動団体遊林会、まちづくり協議会
- 人工資源 道の駅・あいとうエコプラザ菜の花館・河辺いきものの森
- 文化資源 日本遺産（五個荘堂の街並み）、農泊、文化財、食（環境こだわり農産物（米、野菜、果樹）、近江牛、日本酒など）

・鈴鹿山脈を背に扇状地の雄大な農村の原風景が広がる愛東地区において、農家のガイドのもと米やぶどう、梨、茶などの生産を年間通じて本格的に体験できるツアー
・その他 田園の原風景、河辺林の原風景、里山・丘陵地を活用したガイドツアー

湖の原風景

～琵琶湖岸の水郷集落の原風景をいかす～



地域資源

- 自然資源 琵琶湖 伊庭内湖
- 人的資源 粟見出在家町魚のゆりかご水田協議会、能登川漁業協同組合
- 人工資源 能登川水車とカヌーランド
- 文化資源 日本遺産（伊庭の水辺景観）、日本農業遺産（森・里・湖に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム）、食（魚のゆりかご水田米、琵琶湖八珍、鮒ずしなど）

・日本遺産認定の水郷伊庭の原風景を形成する内湖や水路、湧水を活用した暮らしやそれらを背景として発展した神社仏閣から歴史・文化を学ぶガイドツアー
・漁業体験を通じて、豊かな自然の恵みや食文化を伝えるガイドツアー
・ヨシ刈り体験などを通してヨシ群落の大切さや伊庭内湖の環境を楽しく学習できるガイドツアー